

章南中学校の ESD 活動

<活動の概要>

・本校は「持続可能な学校・地域を構築する『ESD』の理念を核にして、『生徒一人一人を大切にする学校づくり』『地域とともに生徒を育てる学校づくり』『教職員の資質向上に努める学校づくり』の3本の柱をもとに、学校・学年・学級経営を推進する」という経営方針を校長が明示し、環境教育を核として、学校教育全体でESD活動を展開している。

そこで本校では、①地元「汐川干潟を中心に据えた環境教育」、②ESDの視点を導入した授業づくり、③ESDの視点を導入したカリキュラム編成を推進している。

・活動の実際

① 汐川干潟を中心に据えた環境教育（全校生徒・地域）

本校では「汐川干潟」を軸にした環境教育を推進している。具体的には、「環境学習デイ」「観鳥会」などの現地学習を年間計画に位置づけ、それらに向けた学習を総合的な学習の時間を活用して実施している。また、実施にあたり、地元「汐川干潟を保全する会」、豊橋市環境保全課・農業支援課、漁協、水産高校、大学との協働を大切にしている。地元団体、行政、企業が関わってくれたことで専門的な知見や物資面を含めた体制の協力、昔の干潟の様子を教えていただける地元の方々の支援を得て、活動が充実しているのはいうまでもない。また、関係団体の方々に支えていただくことで、今後も本校の特色ある教育活動が持続していく明るい見通しがもてた。



環境学習デイで干潟の生き物について学習する



石倉かごの中の生き物調査活動を行う

② ESDの視点を導入したカリキュラム編成（全校）

本校のESDカレンダーは、本校の中心である汐川干潟に関わる活動、一般的な環境問題、地域、安全・安心といった他の特色ある活動を種類別に色分けして、本校の特色が端的にわかるようにした。この改善を学期ごとのPDCAサイクルにのせることで、今後持続的に改善されていくようにした。

③ 「ESD」の視点を導入した授業づくり（教職員）

生徒が未来を生き抜くことができる問題解決力を育てるために問題解決的な学習を取り入れた。学習形態として、6つの授業過程「①場面把握をする②課題を見出す③見通しをもつ④自力解決をする⑤集団解決をする⑥振り返りをする」を導入している。6つの授業過程を意識して50分の授業を組み立てることで、主体的に課題に取り組むよう工夫した。また、授業案には、国立教育政策研究所の7つの能力・態度を参考にして、本校版のものに見直すことにより、授業者のみならず、事後の協議会においても授業の視点が明確となった。今までの環境教育をESDの視点で見直し、SDGsの17の目標と関連づけることで、授業づくりのねらいが明確になった。